



2025 年 10 月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジアータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

サンチアゴ市内は最高気温が **25 度** を超える日もあり、**9 月** よりサマータイムが実施されて日本との時差は **13 時間** になりました。

地球温暖化でチリの夏は少しずつ早くなっているようです。

銅価格は平均 **4.5 ドル** を超えてきました。半導体メーカーの需要が世界で好調な為にチリへ銅の需要が継続しています。為替は **950-960 ペソ** で落ち着いています。

11 月 16 日 の大統領選挙に向けてホセ・アントニオ・カスト（右派）とジャネット・ハラ（左派）の二人がトップを争う選挙戦ですが、中道右派のエブリン・マテイ候補の支持率が増えてきています。トランプ大統領の影響で、南米は左派から右派政権へ移行する国が増えていきます。チリ大統領選挙は国民投票の直接選挙で、投票に行かない国民には罰金が課せられます。

2. 世界市況

米国と中国のトランプ関税はまだ交渉中であり、中国経済の回復も遅れています。

チリから中国への製材輸出数量は過去 **5 年間** で半減しています。

今年後半もまだ販売数量が回復する市況ではなく、チリ各社は東南アジアで中国資本の生産拠点へ販売転販をしています。ベトナム米国関税 **20%**(米国輸出 **29.7%**)、カンボジア関税 **19%**(米国 **37.9%**)、インドネシア関税 **32%**(米国 **9.9%**)の **3 ヶ国** をメインに

2 年前 からチリ各社は既に市場開拓したベトナムの次にカンボジアとインドネシアへ新規販売を始めました **2024 年** の **3 ヶ国** の販売数量は全世界で **20%** を超えており、中国のシェアは **2021 年** の **26.6%** から **2024 年** は **16.0%** へ減少した分をカバーしています。日本のシェアは **2021 年** の **15.3%** から **2024 年** は **10.9%** へ減少しています。

引き続き欧州、バルト **3 国** からのホワイトウッド下級材はタイトな市況が続いており中近東、韓国、台湾市場でチリ製材の需要は堅調です。中国はロシアからレッドパイ

ン製材が潤沢に輸入されており、チリへの依存度は他国と比べて強くはありません。南米ブラジルのトランプ関税が **50%**に決まり、タエダパイン製材は米国向け輸出に大きな影響が出そうです。チリとアルゼンチンは相互関税が **10%**のみですので、今後は米国向け内装部材の集成材市場へブラジルに対して価格的に販売が優位になりそうです。

3. 日本市場

a) バルク配船スケジュール

2025 年 7 月配船（3 番船）は大阪港を 9 月 6 日夕方に発航して、中国南京へ共積みの銅コイルを運んで行きました。今回船よりアラウコのバルク単独配船となりましたが、アラウコは次回 10 月配船（4 番船）もバルク配船で船会社と契約を終えました。

銅コイルかパルプを共積みして日本へは 12 月から各港へ入港予定です。

アラウコの次回配船は 12 月配船（5 番船）をバルク船で予定しており、現地を 12 月後半に出航して、日本各港へは来年 2 月以降に入港する予定です。

CMP C は引き続き 2 ケ月に 1 回のコンテナ配船を今後も継続していく計画です。

b) 梱包市況

9 月の梱包市場は 7-8 月より梱包需要が出始めており、トランプ関税により滞留していた輸出梱包が動き始めています。10 月以降も年末に向けて、梱包市況は今年前半より回復に向かう市況になりそうです。

アラウコバルク 3 番船が 8 月お盆明けから 9 月にかけて入港しましたが、各社の在庫水準は 2.0-2.5 ケ月で次回 4 番船は 12 月入港予定になります。

3 番船との配船間隔が約 3 ケ月になりますので、10 月以降の輸出梱包需要によっては長材(4.8m)を中心に在庫不足になる可能性が出てきました。

為替は 140-145 円のレンジから 145-150 円のレンジで推移しており、今後の日米金利格差の縮小により円高ドル安へ向かう可能性はあります。しかし、日本の政局は不安定であり、米国の経済指標は景気後退のシグナルはまだ出ておらず、ドルが円に対して強い相場が続いています。次回 4 番船の輸入コスト削減は厳しいかもしれません。

新設住宅着工数は引き続き低調ですが、森林からの国産材伐採数量は減少傾向であり、大手製材工場を中心に原木の確保が優先されています。森林従事者の人手不足、物流コストの値上げ等もあり、国産原木が強く推移する市況が続きます。

建築向け集成材は引き続き、コスト面で国産集成材に割安感があり、欧州、米材の集成材、ラミナ材の港頭在庫は増加傾向にあります。国産製材業者が製材する梱包材向け製材数量は横ばいで推移しており、価格も値上がり後は安定しています。

以 上